

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2275100441
法人名	医療法人社団 駿甲会
事業所名	グループホーム実夢
所在地 (電話番号)	焼津市大覚寺918番地 (電 話) 054-620-5517
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(21年 2月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.2人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1, 500 円		

(4)利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 79 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	コミュニティホスピタル甲賀病院、 ふかざわ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、開発が進む静かな新興住宅地の中にあり、開設5年目を迎える。利用者・家族、職員の会話は穏やかで家庭的な雰囲気がある。また、近隣住民との関係も良好で、気軽に声を掛け合い、日常的な交流から災害時の協力関係もできている。法人内の連携も良く、医療面での協力体制は、利用者・家族の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の開催が課題となっていたが、家族会と一緒に開催することで2ヶ月に1回定期的に開催されるようになった。引き続き課題となっているものもあるが、運営推進会議に報告し、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で取り組み、各項目に対する理解を深めた。取り組む中で課題が明らかになり、解決に向け話し合いを行っている。評価結果は、家族会、運営推進会議で報告し、共有することになっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族会と一緒に開催することで、定期的な開催につなげることができた。事業所の運営状況が報告され、参加者から意見をいただいている。今後も活発な意見交換が行われることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「実夢だより」を発行し、利用者の様子や行事予定等を、写真を交えて知らせている。また、家族会や訪問時に個別の様子を伝えたり、日頃から話しやすい関係作りを心がけている。家族の要望や苦情は、即対応し解決に向け取り組む体制ができている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。地域住民は、開設当初からホームに関心を持っており、良い関係を築き上げてきている。今後も、地域でのニーズに応え、役割を担っていかれることを期待する。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、健康で安全な生活を送ること、利用者の個性を尊重し、家庭的な環境の中で穏やかな生活を送ることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭に置いた支援を心がけている。問題にぶつかった時は、初心に戻る意味で理念について話し合うようにしている。	○	一人ひとりの職員の理解を確認し合えるような話し合いや、介護の場面で理念に照らした支援を職員間で共有できるような取り組みを工夫されたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民は開設当初よりホームに関心を持ち、事業所もより良い関係作りに努めてきたので、声をかけるとすぐに協力を申し出てくれる間柄である。町内会の会合にも出席し、清掃活動や運動会にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果の課題点を検討し、具体的な改善に向け取り組んでいる。自己評価を全職員で取り組むことで、各項目で求められているサービスの質と、自分たちの課題を共有することができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、家族会と一緒に開催するようになった。運営状況や事業内容などを報告し、参加者から出た意見によりサービス向上を図っている。	○	町内会役員や民生委員の方にも参加を依頼し、多様な意見が反映されることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には常に相談を持ちかけ、サービスの質の向上に向けた連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や家族会で、暮らしぶりや職員の異動等について報告している。また、毎月写真を載せた「実夢だより」を発行し、ホームでの様子や、行事予定等を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、話しやすい関係作りを心がけている。運営推進会議の参加者も多く、意見や要望を運営に活かすようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と良い関係がどうしても作れない場合に職員を異動したことがあるが、異動はほとんどない。利用者にダメージを与えないよう引継ぎに配慮している。また、日頃から職員間のコミュニケーションを図り、働きやすい職場作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は常に職員を段階的に育成することの必要性を認識し、法人内の研修を毎月行っている。しかし、外部研修は、人員配置の困難さもあり、なかなか職員が参加できない状態となっている。	○	限られた人員体制の中で難しい面もあるが、研修計画を立て外部研修への参加を勧めたり、外部から講師を招くなど少しずつ取り組まれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、地域の同業者との交流はない。以前、志太地区の同業者間で相互訪問等を行っていたので、また交流を通じサービスの向上につなげたいと考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は実施していない。見学や訪問された時に本人や家族の話を十分聞き、情報収集しながら対応を検討している。	○	体験利用についても、希望に合わせて対応し、馴染みながら入居できるように取り組んでいくことを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は寛いだ様子で、思い思いのことをして過ごしている。職員はこまめに居室を訪ね話をし、利用者との共感に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に暮らす中で、利用者の言動や表情から、思いや意向の把握に努めている。表現の困難な利用者は、家族からも話を聞き、職員間の情報を共有して利用者本意の支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見や要望を聞き、関係職員と話し合い作成している。利用者一人ひとりの介護計画は、きめ細かく内容も分かりやすい。	○	短期間で達成できる目標を作り、利用者と達成感を味わえるような計画も作成されることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月毎に行っているが、変化が生じた時は速やかに見直しを行い、利用者・家族と話し合い、希望を取り入れ計画を作成し、現状に即した支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じられるよう、柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に定期的な受診や特定検診の援助を受けている。耳鼻科、眼科、歯科は利用者のかかりつけ医に行き、職員は通院の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関しては、病院でという利用者・家族の意向があり、医療機関に対し情報提供していく方針を関係者間で共有している。	○	利用者・家族の気持ちの揺れにも配慮し、関係者間で話し合いを重ね、また、重度化や終末期に際し、事業所で対応できる支援について職員間で意見を出し合う機会を持つことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の対応はゆったりと穏やかであり、利用者の羞恥心やプライバシーを損ねる言葉掛けや対応は見られない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課は無く、利用者一人ひとりの気持ちやペースを大切にしている。散歩や買い物、自治会の行事に参加するなど希望に沿って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はすべてホームで作製、調理や配膳、後片づけは職員と利用者が一緒に行っている。職員は、調理が良いうらやまになっていることを認識し、支援している。食事中は音楽を流し、食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日利用者の体調と気分に合わせて支援している。入浴拒否の方も、声掛けをしながら無理なく入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの趣味や嗜好を把握し、パッチワーク、はり絵、園芸等楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事以外の日常的な外出支援は、利用者の希望で、体調や天候を見ながら行っている。	○	日中、屋内だけで過ごすことのないよう、利用者の状況に合わせて、職員からも積極的な外出支援に取り組まれたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。帰宅願望や外出傾向のある利用者には、職員と一緒に付き添い、納得するまで一緒に行動したり、職員間で連携し、見守りに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回以上避難訓練を実施している。地域住民や関連施設との協力体制ができている。	○	消防署の協力を得た訓練の実施も検討されたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や、バイタルチェック、排泄の状況など細かく記録し、職員間で共有している。また、法人内の栄養士に相談し、一人ひとりに応じた食事の提供を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂を兼ねた共用空間では、利用者が家庭的な雰囲気の中でゆったり過ごしている。トイレ、居室の表示は花や鳥の名称で分けられ、分かりやく工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットが大きくてスッキリしている。家具などの持ち込みは少ないが、衣類や小物など、それぞれが使い慣れた生活用品を持ち込んだり、好きな物を飾るなど居心地良く過ごせる居室作りを支援している。		